

♫ 木の芽だ 桜だ 丘の上～の園歌より…

丘のうえ

第119号

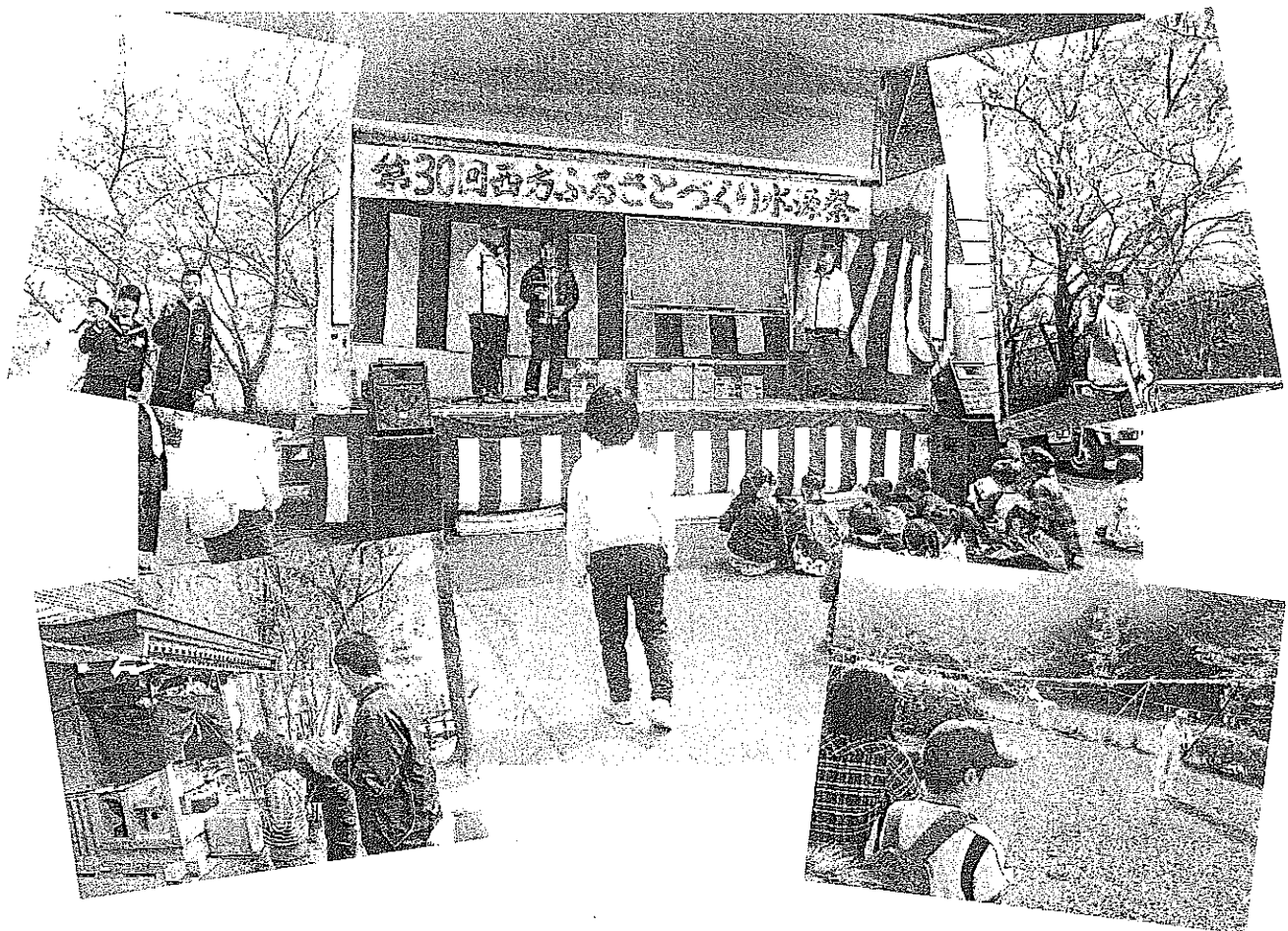
平成28年5月13日発行
発行・編集／東遠学園組合

URL:<http://toengakuen.jp/>

東遠学園在籍者数 児童部20名、青年部23名

東遠地区生活支援センター登録者数110名

こども発達センターめばえ通園児131名 こども発達センターみなみめばえ通園児83名



今年も東遠学園前の桜が満開に咲き誇り、新年度を気持ちよく迎える事ができました。

新しい制服に身を包み自転車で自主登校する児童や、働く人としてそれぞれの活動場所へでかける児童部の仲間たちの背中を「応援してるよ!」と、そっと押してくれるようでした。

四月二日には、春の恒例行事、西方ふるさと水源祭に東遠学園児童部の子ども達と職員が参加し、皆で五穀豊穡と無病息災を祈願してきました。今後も地域との繋がりを大切にしながら、地域の障がい福祉を支えていきたいと考えております。

皆さまのご協力・応援をよろしくお願いいたします。

組合基本計画と28年度の課題

■組合基本計画と

6年間の取り組み

東遠学園組合では、平成22年～29年まで8年間の組合長期計画（3期間）を策定し、児童期を中心とした取り組みを展開してきました。入所部門では、

図っています。また、法改正に伴い、めばえとみなみめばえで障害児相談支援事業及び保育所等訪問支援事業を新規に開始しました。

■第3期実施計画と

28年度の重点課題

主たる施設を青年部から児童部に変更し、支援の軸足を児童期の子どもたちに転換してきました。通所部門は、重度重複障害の方たちの通所施設が平成26年、掛川市内に開設されたため、車椅子の利用者が移行されました。

27年から29年の3年間を、組合長期計画の第3期実施計画として策定しています。この中で平成28年度は、次の2項目を重点課題として挙げ取り組んでいきます。

(1) 児童部の成人期への移行支援

と小規模ケアの充実

(2) めばえ、みなみめばえの療育

体制の検証と、地域の障害児保育との連携強化

はじめに、待ったなしの課題

一方で、幼児期の地域ニーズの高まりを受けて、平成24年にこども発達センターみなみめばえを開設し、療育部門の充実を

となっているのが、児童部で18

歳を超える利用者の成人期への移行支援です。平成24年の児童

福祉法の改正により平成30年

4月以降、18歳を超えた利用者は

当学園での入所ができなくな

ります。現在入所している児童

の大半は家庭生活が困難で入所

をしており、多くが家庭復帰困

難です。しかし、県内の成人入

所施設は数百人の待機者があり、

入所は容易ではありません。

こうした課題を解決するため、

平成27年度に組合構成市町の

担当課長と西部児童相談所長に

よる合同会議を設置し、現在検

討を行っております。児童部を

安心して巢立ち、この東遠地域

の中で大人の仲間入りをするた

めの仕組み作りを本年度構築す

る計画であります。

更にもうひとつの課題として、

こども発達センターめばえ・み

なみめばえの待機児の問題です。

育ちの土台となる3歳（入園

前）までの段階で、フォロワーの必

要な幼児は10%程度いると言

われています。こうした背景を

踏まえ、更に支援が必要な障害

児の早期発見・早期療育、めば

え、みなみめばえの役割、そし

て保育園・幼稚園の障害児保育

対策等を包括的に検討していく

必要があります。このため本年

度組合構成市町の障害福祉・母

子保健・幼児教育各担当課・学

識経験者を構成員とした「在り

方検討委員会」を設置し、今後

の東遠地域における発達支援シ

ステムとめばえ・みなみめばえ

の役割等について協議し、平成

29年度以降の事業計画に反映

していきたくと考えています。

皆さまの御理解、御協力をお願い

いたします。

東遠学園長 高橋住夫

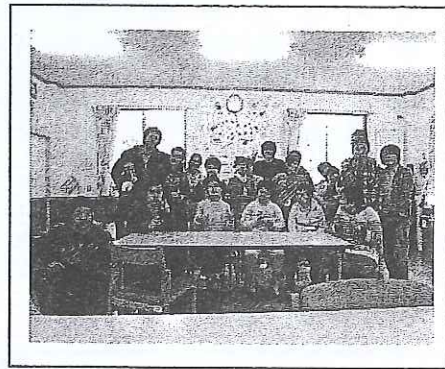
東遠学園青年部

生活介護・入所支援

通所の東遠学園青年部生活介護は定員20名、契約23名、内新規利用者は3名です。グループ編成は、在宅者中心の「和」、入所者中心の「なかやま」、合理的配慮が特に必要で、小集団活動の「つばさ」の3つで活動しています。活動内容は缶回収や缶潰しの作業、自動車部品のバリ取り、鑄造部品のテープ貼りの下請け作業を実施しています。余暇活動としては、クラブ活動としてカラオケ、お茶、お花、スポーツを実施し、お茶、お花はボランティアの先生に来て頂いています。

施設入所定員は10名で、青年部棟でロング短期入所利用者2名と児童部過齡児2名の計14名で生活をスタートしています。利用者の気持ちに寄り添い、一人ひとりの要望を汲み取りながら生活環境を整えることで、それぞれが穏やかに生活でき、地域移行に必要な

な力を獲得できるサービスの提供に努めていきます。



短期入所・日中一時の受け入れも行っています。

それぞれの利用者が青年期を豊かに過ごし、本人が主体的で快適な生活を送ることが出来るよう職員一丸となって支援してまいりますのでよろしくお願いいたします。

青年部 妹尾和久

東遠学園 児童部

東遠学園児童部は定員二十名の福祉型障害児入所施設です。

今年度、新たに一名の児童が入園、中学部・高等部に進学した児童も二名おり、それぞれが新たな生活をスタートさせています。

昨年度、退園した一名は在宅より就労継続B型事業所へ通い始め、社会人としての第一歩を踏み出しています。

【高校三年生以上が九名在籍】

児童部二十名中、高校三年生以上が九名所属しています。児童福祉法において、二十歳までの在籍が可能なのですが、心の発達や社会性等を日々育てる傍らでは、卒業後の生活の場や生活スタイルを短い期間で模索していく必要があります。

一番大切にすべきは、児童の安心と安全。その上での生活実現に向けて考えて行きたいと思

います。

【新たな生活】

「施設生活をしながら一般就労」。入所型の施設だと、実現が難しいサービス利用の形の一つです。

昨年度、市役所を始め関係機関の理解と協力の基、掛川市森林果樹公園に新設された、「アトリエ」（レストラン）に就職し、東遠学園より通勤を始めた児童がいます。

その実現を支えたのは、児童の「アトリエで働きたい！」という思いでした。

東遠学園として精一杯支え、次の生活のステージへ繋げていきたいと思えます。

他にも、高等部へ進学し自転車での登下校を開始した子、入園した事で転校となり不安いっぱいでの新年度を迎えた子など、それぞれの児童が期待と不安を抱えながら新生活をスタートさせています。児童部 鈴木克則

繋がりが合う発達支援システムとは

東遠地区発達支援システムの在り方検討委員会を

開催します

東遠学園組合では、平成二十二年から八年間の中で組合基本計画を進めてきました。これまでの児者併設から、成人部門を縮小し児童期を中心とした事業への再編を行ってきました。

この組合基本計画は三つの課題を持つています。一つ目は、児童部の進路対策です。児童福祉法改正により、成人になると児童部の利用続行が不可能になります。その期限が平成二十九年度末までとなります。二つ目は、行動障害や養育困難のための予防対策です。日に日に問題行動が大きくなり、家族が本人を支えきれなくなることでやむなく入所になる事例もあります。問題行動が大きく複雑化する前での対策が必要で、三つ目の課題となるのが、地域療育システムの再構築です。

発達に特性のある、あるいは遅れのある乳幼児期のお子さんへの支援について、健診後のシステムは定着してきました。しかし、問題となつていのはその数です。早期からの療育の必要性があつても、対象児が増え続けており、希望した支援が受け切れない状況になっていきます。

待機児対策として五年前に開所したみなみめばえもすでに定員を超え、めばえは今年度からクラス数を増やしての対応となつていいる現状があります。

今後必要とされる支援について、関係機関が話し合う場を設け、東遠地区の現状を出し合い、これらの課題について考える機会を今年度から実施します。これが『東遠地区発達支援シ

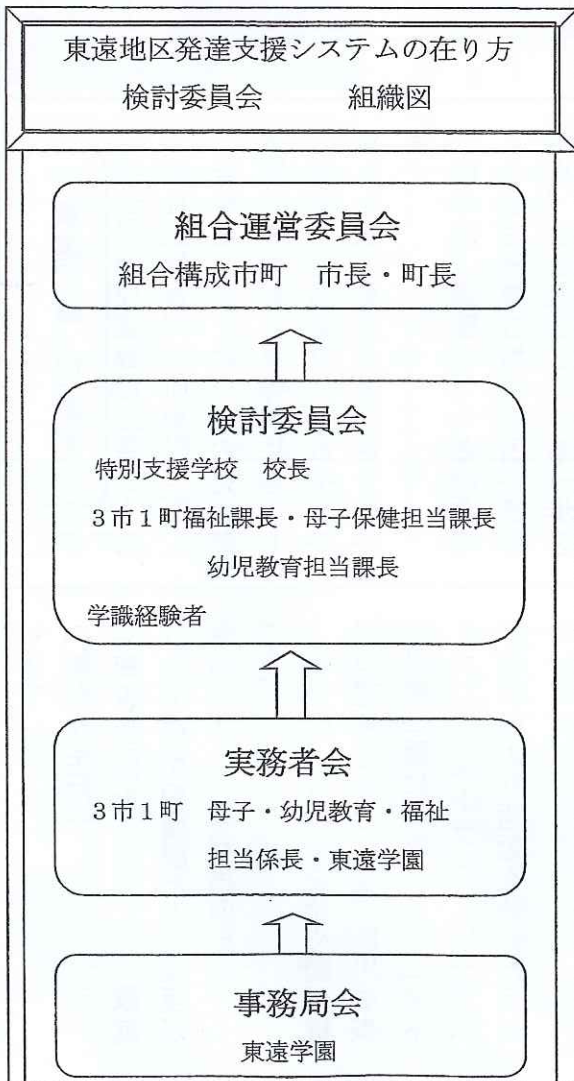
ステムの在り方検討委員会』です。

この在り方検討委員会では、掛川・袋井特別支援学校校長や構成市町である三市一町の福祉・母子保健・幼児教育の課長に加え、近隣の小児科医師・精神科医師・浜松市相談支援センター所長にもメンバーとなつて頂いています。そして、この下に実務者会を設け、福祉・母子保健・幼児教育の担当係長からそれぞれの地域の現状を出し合い、課題に対しどのような支援が必要なのかを考えていきます。

そして、様々な視点からの御意見を戴く中で、療育の枠作り・めばえの役割・地域との連携等の課題について総合的に再検討していきます。子育てに不安や心配があつても、地域に住む誰もが互いに繋がりが合つていける発達支援システムを、市町の皆さんと共に構築していきたいと思ひます。

こども発達センターめばえ

主幹 岡本 あや



平成 28 年度めばえ第 24 回、みなみめばえ第 5 回の入園式を行い、新しいお友達を迎えてにぎやかに新年度がスタートしました。



平成 28 年度 めばえ・みなみめばえ 入園式



めばえの一日は「おはよう」のあいさつと♪てをたたこ〜う♪の歌ではじまります。子どもたちと視線を合わせ、今日の体調はどうか？機嫌はどうか？と観察をし、とびっきりの笑顔で「今日も楽しく遊ぼうね〜」と迎え入れます。

乳幼児期のこどもは遊びの中で色々な事を学んでいきます。生活そのものが学びなのです。なんだろう？と興味を持ち、やってみようと挑戦し、楽しいを感じもっとやってみたい！と広がっていきます。平成 28 年度も子どもたちの「もっとやってみたい！！」を沢山引き出せるように、職員一同努めていきたいと思います。

みなみめばえ所長 奈良間瑞穂



笑顔の生活支援の 充実を願って。

東遠地区
生活支援センター

相談部

サービス等利用計画(ケアプラン)の義務化が三年間のみなし期間を経て一年が過ぎました。ご本人の願いやご家族から望む生活を聞き取り(アセスメント)、関係機関との調整を行いトータルプランとして地域生活を安心して送る利用計画を立案します。そして、定期的な振り返り(モニタリング)を行い、より必要なサービス提供を図り、サービス内容の変更をします。この計画を基に、サービス事業所や通所施設の支援に繋がり、地域生活の充実を図っていきます。ご本人の叶えてほしい本当の願いを聞き取る力を磨き高め、ご本人の意思が尊重された計画を作成できるよう努力してい

きます。

平成二十五年度から開始した御前崎市と森町のサテライト相談も定着が図られています。今後も指定相談事業所やサービス提供事業所との連携を図り、利用者を中心とした笑顔溢れる生活への取り組みを進めていきます。

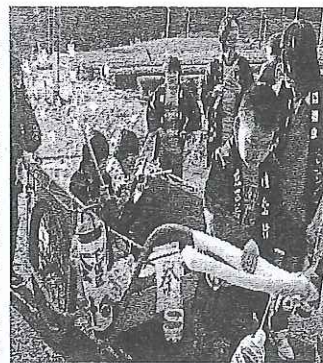
サービス部

相談事業所からの「サービス等利用計画」を基に、個別支援計画を作成し、具体的な支援を行っていきます。余暇支援を中心とした「移動支援」や「行動援助」を中心に、ご自宅に伺って



支援する「身体介護」や生活自立に向けた「家事支援」を行っています。在宅生活の充実の中には、地域に出て活動する事も含まれています。家族ではない、第三者的な立場のヘルパーと一緒に、自己選択した活動を行う充実感を感じて頂けるよう、毎回のサービス提供に臨んでいます。

放課後等デイサービスは、今年度より、支援学校に通う高校生までを対象とし、地域の支援学級の生徒さんもご利用して頂けるようになりました。また、日曜日開催も開始し、今年度は「ワクワク・ドキドキ」をテーマに、外出活動や野菜作り、手作りおやつと食事作り等を行い、より楽しめる日課を提供していきます。昨年の行事活動でも子ども達が目をキラキラ輝かせて参加する姿や、好きな事へ向かって頑張る姿を多く見せてもらいました。思いを伝え合える関係性を育て、一人ひとり



を大切に(本人の強みを生かした支援)、ご家庭や学校・他事業所との連携を図り、子供達の更なる成長に関わっていかせらと願っています。

在宅支援の拠点として、「途切れない支援(就学や青年移行時)」「発達の危機(思春期の行動障害)に至る前の予防的支援」を強く意識し、相談をはじめとする、様々な支援やサービスを組み合わせ、広く在宅を支えられる生活支援センターを目指していきます。

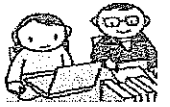
今年度も、温かいご理解ご協力をお願いいたします。

東遠地区生活支援センター

所長 八木智子

新入職員紹介

〔東遠学園 青年部〕



《飯尾 峻平》



分からないことが沢山ありますが、利用者さんと一緒に毎日の生活を楽しく過ごしたいと思ひます。宜しくお願ひします。

《戸塚 清花》



昨年、8月から始め、今年度から青年部に配属されました。毎日利用者さんと楽しく生活したいと思ひます。

【めばえ】
《村松 真妃》



子ども達と一緒に過ごせる喜びと責任の重さを感じながら、夢と未来が詰まった子ども達の心を大切に育みたいと思ひます。

《岡本 亜加梨》



キラキラ元氣いっぱいの子とも達と、たくさんさんの愛情でたくさん一緒に遊んで、毎日楽しく過ごしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

《柳 敬子》



笑顔を絶やさず子ども達と一緒に過ごしていきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

《窪田 美枝》



一つひとつ勉強しながら、子ども達との関わりを大切に過ごしていきたいと思います。

《鈴木 理恵(調理)》



皆さんにおいしい給食を食べてもらえるように頑張ります。いつでも声を掛けて下さい。よろしくお願ひします。

《塩濱 陽子 調理》



給食の調理担当です。安心・安全、美味しい給食作りを心掛けます。よろしくお願ひします。

【みなみ めばえ】

《宮本 理子》



初心を忘れずに、明るい笑顔と元氣で頑張ります。よろしくお願ひします。

《池谷 久美子》



みなみめばえの子ども達の無邪氣な世界観に魅了されています。よろしくお願ひします。

《大澤 裕香》



子ども達と楽しい活動をいっぱいしたいなと思ひます。よろしくお願ひします。

《松下 奈津》

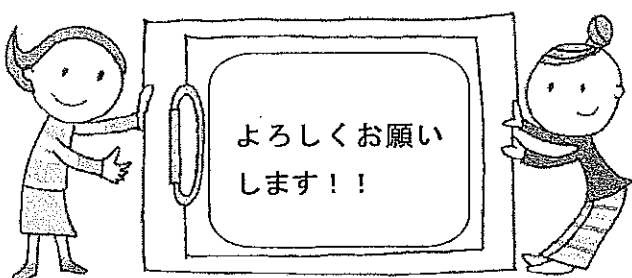


毎日の生活の中で、楽しい事、うれしい事を子ども達と一緒に発見していきたいと思います。

《宮城 優理》



子ども達がたくさん食べてくれるよう、おいしい給食をつくってまいります。よろしくお願ひします。



《 行事予定 》

<5月>

18日(水)内科検診

21日(土)家族会総会・美化活動

<6月>

10日(金)利用者検診

<7月>

2日(土)療育講演会

23日(土)西方地区センター祭り

25日(土)フジオーゼックス納涼祭

<8月>

5日(金)めばえ、みなみめばえ納涼祭

夜間総合防災訓練(学園)

7日(日)同窓会(学園)

10日(水)～17日(水)生活介護夏季休暇

《 感謝の心 》

奥宮貴志夫 様 (現金)

和田森友聖 様 (現金)

フジオーゼックス株式会社 様 (現金)

ミクニ労働組合 様 (現金)

小さな親切運動静岡県支部 様 (物品)

アピタ掛川店 様 (物品)

有限会社榛地商店 様 (物品)

地方紙正月連合企画 様 (物品)

鈴木瑞枝 様 (ボランティア)

伊谷園枝 様 (ボランティア)

栗下静江 様 (ボランティア)

暖かい善意をありがとうございました。

編集後記

熊本県を中心に発生した地震により被災された多くの方々には、謹んでお見舞い申し上げます。

先の地震災害について、連日多くの報道がされており、被害の広がりについて、連日多くの報道がされており、被災して協力し、助け合う人々の姿に胸を打たれ、人と人との繋がりの大切さを改めて感じました。

広報誌を通して、利用者さん、子ども達、学園の姿を多くの皆さんに知ってもらえるようにしたいと思います。今年度も宜しくお願い致します。

〔編集委員〕

宮城芳夫・山田訓士・山口盛弘
中村洋平・吉田博仁・村松彩奈

— 苦情解決窓口より —

平成28年2月～4月

苦情はありませんでした。ご意見ご要望をいただいています。

《生活支援センター》

サービスの内容の変更について不安がある。
⇒今回突然の変更のお話となってしまうため、今後は時間に余裕を持った変更となるようにすることを伝えた。

《短期入所》

感染症による利用のお断りについて、対応を考えて欲しい。⇒現状の設備・職員体制では感染しないように受けることが難しい事を説明し今後については検討を重ねることを伝えた。

貴重なご意見ありがとうございました。

東遠学園 児童部・青年部	〒439-0037	菊川市西方 4345-2	TEL:0537-35-2753	FAX:0537-35-2799
東遠地区生活支援センター支援担当 相談窓口	〒439-0037	菊川市西方 4346-16	TEL:0537-37-3995	FAX:0537-37-3996
こども発達センターめばえ	〒436-0016	掛川市板沢 1941-35	TEL:0537-23-2312	FAX:0537-23-0008
みなみめばえ	〒437-1611	御前崎市新野 1877-7	TEL:0537-85-1200	FAX:0537-85-1201